

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立槻の木高等学校
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 国公立大学への現役合格者の増加 ② 一日平均学習時間の増加。 ③ 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の向上
計画名	～主体的・対話的で深い学びの実現～ 槻の木「探究する授業」プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶</p> <p>(1) 大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。</p> <p>ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導方法の研究を行なう。</p> <p>イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。</p> <p>※ R3年度において、国公立大学合格者現役 20%以上をめざす。</p> <p>ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。</p> <p>※ R3年度において、一日平均学習時間 100 分以上（2年生 10 月）を維持する。</p> <p>エ 「槻の木 NEXT STAGE」（企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など）の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。</p>
事業目標	<p>ICT を活用した「主体的・対話的で深い学びの実現」のための継続的な「探究する授業」の研究を推進し、「興味・関心が湧く授業」「体験・発表型授業」に取り組むことで、生徒の学力及び学びに向かう力を育てる。</p> <p>もって、「R3年度において、国公立大学合格者現役 20%以上をめざす。」を、「H31年度に 16%、R2年度に 19%、R3年度に 22%以上をめざす」に変更。また、「R3年度において、一日平均学習時間 100 分以上（2年生 10 月）を維持する。」を「H31年度に 100 分、R2年度に 105 分、R3年度に 110 分以上にする」に変更する。さらに、「学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」を H30 年度の 75%から毎年 3%引き上げ、R3年度には 84%にする」を付加し、その実現をめざす。</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教室（18 教室）への短焦点プロジェクターの設置。
取組みの 主担・実施者	<p>主担者：槻の木「探究する授業」プロジェクトチーム（教頭、事務長、首席、教科代表者、情報係）</p> <p>実施者：全教員の 8 割程度。</p>

<p>本年度の 取組内容</p>	<p>前期、後期の年間2回、全教科において研究授業を実施すると共に、平素から全教員のお互いの授業交流や、新任研修・インターミディエイト研修・アドバンス研修・10年経験者研修参加者等の授業参観を活発に行う等、授業の研究を進めた。</p> <p>本年度は、短焦点プロジェクターの設置が年度末となったことから、設置したプロジェクターを授業に活用することができなかったが、来年度からの活用のため、探究PTを中心として、先進校視察を実施し伝達研修を行うとともに、令和2年4月3日にプロジェクターの使用方法や電子黒板機能の紹介等の研修を実施する予定である。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大学現役合格者（H30年度 13.7%）を16%以上にする。 ・ 一日平均学習時間（2年生10月）（H30年度 95分）を100分以上にする。 ・ 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」（H30年度 75%）を78%にする。
<p>自己評価</p>	<p>探究する授業プロジェクトチーム及び新カリキュラム編成プロジェクトチームを立ち上げ、カリキュラムの検証を進めるとともに、研究授業等で積極的に「体験・発表型授業」を実施する等、主体的・対話的で深い学びの実現を進めることができた。</p> <p>z 国公立大学現役合格者は、6.7%であった。……………（△）</p> <p>z 一日平均学習時間（2年生10月）は、107分であった。……………（◎）</p> <p>z 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」は、75%であった。（1年生では93%（H30:87%）に上昇）……………（△）</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>探究PTを中心とした取組みを強化していく。</p> <p>z 研究授業・研究協議（前後期各1回、全教科）を行い報告会を実施。</p> <p>z 機器活用及び探究する授業の実践に係る校内研修を実施。</p> <p>z 今年度は予算がなくタブレットが買えなかったため、その台数は少ないが、無線LAN環境の整備、タブレットを活用した授業についても、研究を進める。</p>